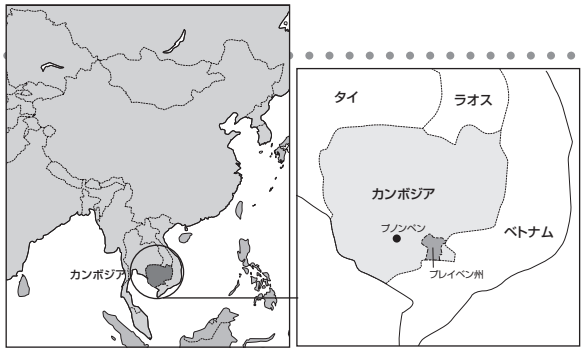
ユニセフ**子ども物語**

地球に生きる子どものくらし

Cambodia : Prey Veng

カンボジア プレイベン州



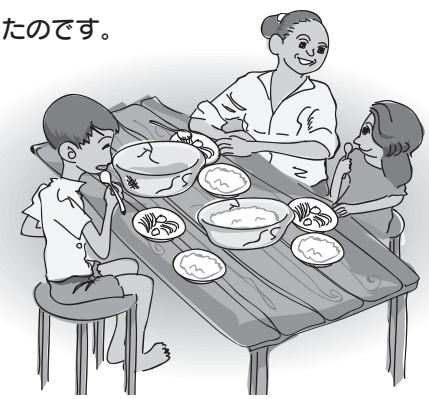
地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。

エイズなんかに負けないぞ！

カンボジアの首都プノンペンから車で約3時間かかるプレイベン州プレイベン地区。町の中心から、乾いた土の道路をさらに車で数十分走ったところにある村に、トーイ君（16歳）は暮らしています。村はカンボジアの中でも貧しく、木の枝とワラでできた粗末な家が建ち並んでいます。その中の小さな一軒家に、トーイ君はひとりで住んでいます。

トーイ君は日本でいえば高校1～2年生ですが、体が小さくて、小学校6年生くらいにしか見えません。なぜトーイ君は十分に成長していないのでしょう？　まだ16歳なのに、なぜたったひとりで生活しているのでしょう？　その答えには、「HIV／エイズ」という病気が大きく関わっています。

トーイ君はお母さんと妹の3人で暮らしていましたが、お母さんがHIVに感染し、エイズを発病して、亡くなってしまいました。お母さんが死んだあと、おばあさんと暮らすことになったのですが、おばあさんも病気がちで、治療を受けるため、妹とプノンペンへ行ってしまいました。エイズが原因で家族がばらばらになって、トーイ君はたったひとりで暮らすようになったのです。

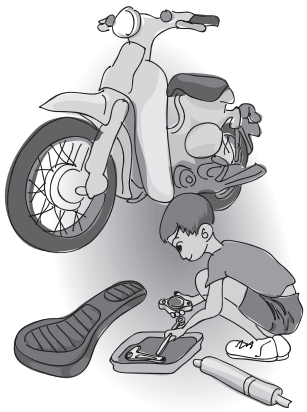


生活が貧しかったので、お母さんはトーイ君がおなかにいるときから、十分な栄養をとることができませんでした。トーイ君は生れる前も生れてからも、ずっと発育不良だったのです。頼れるおとながいなくなってしまった今は、毎月配給されるお米が唯一の食事です。そのため、栄養がかたより、身体が十分に成長できないのです。

でも、彼は決して弱い男の子ではありません。夜になると心細くなることもあるけれど、いつか妹やおばあさんといっしょに暮らせる日のために、ひとりで自分の家を守っています。

16歳ですが、学校は小学校の5年生に通っています。年齢が違うために友だちも少なく、いじめにあったこともありました。それでもがんばって通いつづけ、いじめもなくなりつつあります。

学校で一番好きな科目は算数です。「もっとたくさん勉強して、大きくなったらバイクや車の修理工になりたいんだ。」輝く瞳で、トーイ君はそう語ります。夢をあきらめない限り、いつかきっと、その願いがかなう日がくるにちがいありません。



<文・構成：（財）日本ユニセフ協会>

物語の国
カンボジア

カンボジアは、日本のほぼ半分の大きさで、約1400万人の人口のうち9割以上がクメール人です。1970年代以降、内戦やポル・ポト政権による伝統的社会の破壊、ベトナム軍の侵攻など、混乱と破壊の時代が長く続きましたが、1998年に民主的政権が樹立され、ASEANやWTOへの加盟も果たし、復興への道を歩んでいます。

ユニセフが支援するカンボジアの指定募金事業

プレイベン州の状況

にぎやかな首都プノンペンから一変して、プレイベン州は、砂糖ヤシや田畑の風景が広がるのどかな農村地帯です。州の住民の8割以上は農業で生活をしています。収穫が不安定なため、仕事を求めてプノンペンに出稼ぎや移住する家族が多くいます。家族とともにプノンペンに移住し、再び村に戻ってきた子どもが村や学校の生活になじめなくなったり、児童労働のために中途退学することが問題になっています。

プレイベン州の農村の風景。
Ⓒ日本ユニセフ協会

エイズ孤児に対する支援

カンボジアでは、1990年代に急速にHIV/エイズ感染者が増加しました。現在、約3万人の子どもが、HIV/エイズによって片方もしくは両方の親を亡くし、エイズ孤児になっています。エイズ孤児は、多くの場合、家計を助けるために学校をやめて働いたり、家族の世話をしなければなりません。

ユニセフは、子どもにとって、住み慣れた地域で育つのが最良であると考えています。地域の人たちが孤児となった子どもをあたたかく見守り、協力してくれるようなしくみをつくり、食事や学校生活の様子などを定期的に確認し、子どもたちが学校に通い、健やかに育つよう見守り続けています。

わら葺きの家に1人で住むエイズ孤児の少年(写真左端)。現在、米の支給を受けていますが、庭で野菜を自分で栽培して生活したい、と話してくれました。
Ⓒ日本ユニセフ協会

「子どもにやさしい学校」

「子どもにやさしい学校」は、ユニセフがカンボジア政府と協力して取り組んでいる、子どもの権利を基盤とした学校です。十分な広さの校舎の建設、給水場やトイレの設置、教材の充実など、子どもにとってよりよい学習環境を作っていきます。現在、プレイベン州の小学校のほとんどが「子どもにやさしい学校」に認定されています。

698人の児童が学ぶスノート小学校もそのひとつで、グループワークなどが行われ、子どもたちが積極的に発言し、活気にあふれています。課外授業で取り組んでいる伝統的な民族楽器の演奏が始まると、地域の人たちも聴きに集まってくるため、地域との交流の場にもなっています。

「子どもにやさしい学校」としての取り組みが始まってから、スノート小学校では出席率や進級率も着実にあがっています。

いきいきと学ぶスノート小学校の子どもたち。教室の壁には子どもたちの作品や教材がたくさん飾ってあります。
Ⓒ日本ユニセフ協会

→校庭で民族楽器を演奏する子どもたち。音楽の先生に習って弾けるようになりました。
Ⓒ日本ユニセフ協会

←図書館ではきれいに本を掲示し、きちんと貸し出しの管理もしています。
Ⓒ日本ユニセフ協会

◆カンボジア指定募金貸し出しキットのご案内◆

ユニセフの指定募金事業では、カンボジアの農村の子どもたちが健康に育ち、学校に通えるように地域で教育を広め、互いに協力できるしくみづくりを応援しています。事業内容をわかりやすくまとめた「指定募金用資料キット」の貸し出しを行っていますので、ご利用ください。 お問い合わせは、**学校事業部　☎03-5789-2014**まで

【キットの内容】（キットの内容は改訂の予定です）
①プロジェクトの背景・解説　②VTR「カンボジアの子どもと未来」(15分)　③掲示用写真資料　④現地の識字教材